

看護師発。暮らしと医療を繋ぐ病院広報誌

ご自由にお持ちください

西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL



12月号

2020 No.04



中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

SPECIAL REPORT

**第一に生活への目線、
患者に寄り添う整形外科。**

整形外科特集

CONTENTS

- ① Cure 病気のおはなし
- ② Care 療養支援のおはなし
- ③ 地域医療を支える新しい力
- ④ 地域医療の豆知識
- ⑤ NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

西尾市民病院の整形外科では、高齢者に多発する大腿骨頸部骨折に対して、年間約170例の手術を行っています。当地区では高齢化が急速に進んでおり、80代、90代の患者さんも珍しくありません。退院後も安心して生活を送ることができるよう、患者さん一人ひとりの生活背景を理解し、経済的な面も含めて総合的にサポートしてまいります。

SPECIAL REPORT

第一に生活への目線、 患者に寄り添う整形外科。

整形外科特集

患者一人ひとりの生活背景を理解し、
日常を取り戻すために全力を尽くす。

CHAPTER 01 退院後の生活を見据え 最善の治療を提供する。

西尾市民病院の整形外科外来では、この日、エックス線写真を見せながら、患者の家族に説明する主治医の加藤庄平（整形外科医長）の姿があった。この患者は、数日前に玄関の段差を踏み外して転倒した80代女性。エックス線検査をしたところ、関節の内側が骨折していて、大きくずれていることがわかった。加藤は人工骨頭置換術がふさわしいだろうと判断、家族に提案することになったのだ。「人工骨頭置換術は安全性の高い治療法であること。手術後は速やかにベッドの起き上がりや歩行の練習をしていくこと。その後、症状に応じて回復期リハビリテーション病院に転院し、訓練をしていくこと」などを、加藤はわかりやすく説明していった。家族からは「元のように歩けるようになるのか」「認知症が悪化しないだろうか」などいくつもの質問が出て、そのたびに加藤は共に考えながら、丁寧に返答していった。同院では近年、こうしたインフォームドコンセントに、より一層力を注ぐようになってきたという。その理由について、整形外科部長である犬飼規夫は次のように語る。「西尾市は全国的に見ても高齢化が急速に進んでいます。当科でも80代、90代の患者さんも珍しくありません。そこまで高齢になると、退院後の生活がご家族の一番の心配ごとになります。どう

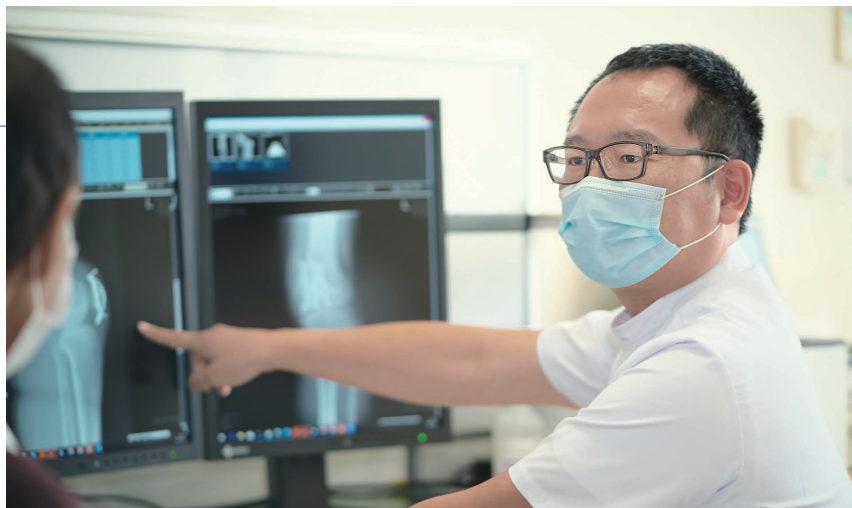
やって以前の生活を取り戻していくか、どの治療法を選ぶのが最適か、じっくり話し合うよう心がけています」と説明する。

加藤の説明に安心した家族の承諾を得て、数日後、人工骨頭置換術が行われた。執刀医は加藤、その傍らに犬飼をはじめとしたベテラン医師がつき、若手医師の内藤健太も補佐役として参加。複数の医師がチエックの目を光らせる、安心・安全のチーム体制だ。加藤は坐骨神経などに触れないよう慎重にメスを動かし、骨頭を取り出し、金属製の人工骨頭を固定していく。手術は1時間余りで、無事に終了した。「整形外科は現在医師6名体制で、ベテランと若手がバランス良く配属されています。手術のパフォーマンスも一層向上していると思います」と加藤は自信をにじませる。

COLUMN

●西尾市民病院の整形外科では、月に一度、患者の生活を支える診療所の先生方を招き、ミーティングを開催。医師同士が顔を合わせ、紹介された患者の治療経過について報告したり、難しい症例や新しい治療法などについて情報交換している。

●市民病院と診療所の医師が顔の見える関係を築くことにより、入院治療と在宅療養を一本の線で繋ぎ、継続した医療を提供。市民が高齢になっても安心して暮らしていけるよう支えている。



CHAPTER 02

整形外科の治療だけでなく 全身状態を管理していく。

人工骨頭置換術に参加した若手の内藤は現在、入職3年目。2年間の初期臨床研修を経て、整形外科に進むことを決意した。今は専攻医(専門医をめざして研修プログラムを実践中の医師)として、日々研鑽を積んでいる。「整形外科は、歩けなかった人が手術で歩けるようになるなど、治療の成果をダイナミックに感じられるところに魅力を感じました。3年目で主治医を任されるようになり、責任の重さを実感しています」と内藤。主治医の責任とは何かと尋ねると、「全身を診るところ」という答えが返ってきた。「ご高齢の患者さんが多いので、手術がうまくいっても、入院中に筋力が落ちたり、食事がとれなくなったり、慢性疾患や認知症が悪化することもあります。そういう全身の状態に目配りしながら、早期退院をめざしていく難しさがあります」と内藤は語る。そのために内藤

が頼りにしているのは、上級医はもちろん、周囲のスタッフたちだという。「看護師やリハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど、それぞれに専門知識を持つプロに頼る場面がとて多いです」。

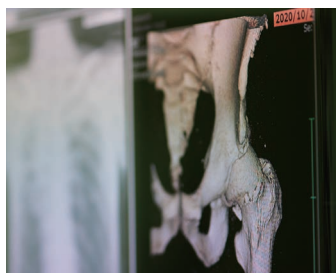
その言葉を裏づけるように、「当科にとつて、多職種との協力体制は非常に大切ですよ」と語るのは、整形外科を率いる大飼である。「今や、ひと昔前と違い、医師の技量だけで整形外科の治療を完遂することはできません。どうすれば、患者さんが普段の日常生活に帰っていけるのか、経済的な面も含めて総合的にサポートしていくことが、私たち市民病院の役割になってきたことを痛感しています」。整形外科では毎週1回、さまざまな職種が病棟に集まり、カンファレンスを行い、患者について情報共有している。「これからも生活との距離が近い市民病院の整形外科として、患者さん一人ひとりにきめ細かく寄り添っていこうと思います」。大飼は高齢化の進む地域を見据え、決意を語った。

BACKSTAGE

コロナ禍であっても 早期の手術が必要。

●コロナ禍で、人工関節などの予定手術を延期している人が多いという。ただ、必要な手術を先延ばしにすればするほど、痛みから体を動かさなくなり、結果として要介護になるリスクは高まる。

●西尾市民病院では徹底した院内感染予防策に取り組み、患者の受け入れに努めている。生活の質を維持するために欠かせない手術であれば、主治医とこまめに連絡を取り、早期の治療計画を立てていくことが望ましいだろう。



キュア
Cure

病気の おはなし



テーマ

大腿骨頸部骨折

高齢女性に多い骨折。
すぐに適切な治療をしないと、
要介護状態になるリスクも。

加齢で骨がもろくなると 骨折しやすくなります。

大腿骨は、脚のつけ根からひざあたりまである太ももの骨のこと。その先端にある骨頭(こっとう)の下部分が折れてしまうのが、大腿骨頸部骨折(だいたいこつけいぶこっせつ)。骨頭の少し下の部分が折れるのが、「大腿骨転子部骨折(だいたいこつてんしぶこっせつ)」といいます。

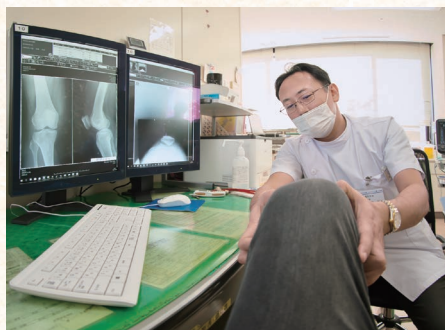
大腿骨の骨折は、高齢女性に多く発生します。その理由は、加齢により骨がもろくなるとともに、バランス感覚が衰え、転びやすくなるから。とくに、骨粗しょう症を患う方は注意が必要です。ちょっとした段差につまずいて転んだり、フローリングの床で滑って転倒するだけで骨折することもあります。

治療方法の基本は 外科手術です。

大腿骨頸部が折れているかどうかを調べるには、レントゲンによる検査を行います。その上でCT検査やMRI検査などを行い、詳しく調べることもあります。

基本的な治療方法は、外科手術です。できるだけ早く手術をして、リハビリテーションに取り組み、寝たきりになるのを防ぎます。骨のずれが小さい場合

は、骨を金属などの器具で固定して、折れた部分をくっつける「骨接合術」を行います。但し、骨が大きくずれてしまった場合、骨頭部に血流が行かなくなり、骨頭壊死を起こすリスクがあります。そのため骨頭を、金属などでできた人工骨頭に置き換える「人工骨頭置換術」を行います。さらに、股関節が著しく壊れてしまった場合、人工股関節に入れ替える「人工股関節置換術」を行います。



Message

医師からのメッセージ



整形外科部長
犬飼規夫

早期の手術とリハビリテーションで生活を取り戻します。

大腿骨頸部骨折は、高齢女性に多く発生する骨折です。当院では年間約170例の手術を行い、地域連携バス(治療計画に沿って、地域の医療機関と継続的に診療を行う仕組み)を運用して、術後のリハビリテーションを地域の回復期リハビリテーション病院へ依頼しています。

治療のポイントは、いかに以前の生活を取り戻すか。大腿骨頸部を骨折すると、痛みで動けなくなります。そうすると活動範囲が狭くなり、生活の質が低下するとともに、認知症や慢性疾患が悪化することもあります。そのため当院では、高齢であってもできる限り早期に手術を行い、リハビリテーションに取り組むよう治療を進めています。また、骨折を防ぐには、日頃から転倒予防に配慮した住環境を整えることも大切です。

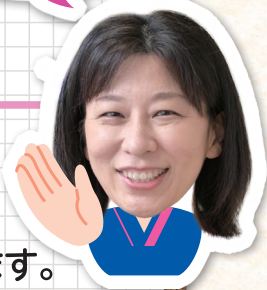
療養支援 の おはなし

テーマ

退院支援

退院後も、患者さんにご家族が
安心して生活できるよう、
専門職が連携して支援を行います。

病気を
治すだけじゃ
ありません。



退院が困難な患者さんを、 入院段階から支援します。

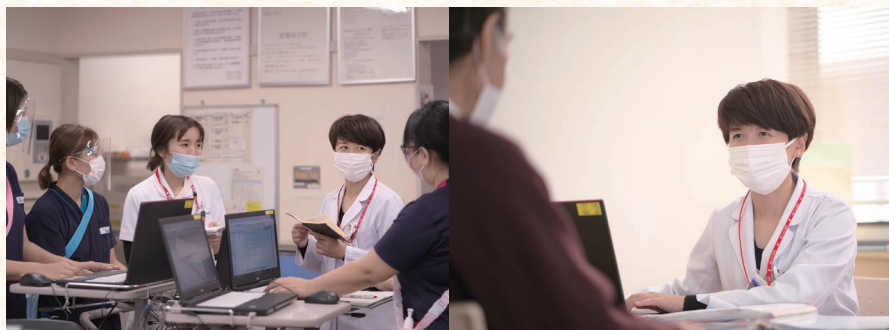
退院支援とは、入院治療を終えた患者さんがスムーズに退院し、退院後もご自宅や施設などで安心して療養生活を継続できるよう、入院時(場合によっては入院前)から行う支援のことです。現在、多くの病院には退院支援を専門とする部署・部門が設置されており、「支援が必要な患者さんの洗い出し」、「退院支援計画の作成」、「患者さんやご家族の意思決定支援」、「退院に必要な制度や施設、サービスの紹介と調整」、「退院後に関わる院外スタッフとの情報共有」などを担当。身体的、経済的、社会的に退院困難な要因を抱える患者さんに対し、多職種が連携して支援を行っています。

患者さん一人ひとりに合った、 支援を心がけています。

当院には、入退院支援と患者支援、医療福祉相談を包括的に担う部署として「患者支援室」が設置されており、そのなかで退院調整看護師3名と医療ソーシャルワーカー(社会福祉士資格保持者)4名が退院支援を担当しています。

退院支援を行う上では、何より「患者さんを知る」ことが大切です。患者さん

は一人ひとり暮らし方や生き方、望みが異なります。私たちは、入院当初から丁寧なコミュニケーションと観察を続けることで、患者さんやご家族を取り巻く環境、患者さんの本当の思いをしっかりと理解し、それぞれのライフスタイルや希望に応じた支援を行えるよう常に心がけています。また、不安を抱える患者さんやご家族にできるだけ安心を与えられるよう、相手の立場に立った言葉かけや関わり方にも努めています。



私たちが支援します



鈴木康代
(医療ソーシャルワーカー/
患者支援室)

どんな小さなことでも、気軽にご相談ください。

現在、新型コロナウイルスの影響で、退院支援はさまざまな課題に直面しています。面会制限で患者さんの回復ぶりが把握できず「退院できる状態なのか不安」というご家族も多いですし、地域スタッフとの連携も以前より気軽に行えなくなりました。

当院では、こうした状況でも皆さんができるだけ安心して退院できるよう「患者さんのリハビリ風景をリハビリ室の外からご家族に見てもらう」、「普段から病棟などでの様子を把握しておき、ご家族にお会いした際しっかり伝える」などの工夫を行い、地域のケアマネジャーさんの力も借りながら退院支援に取り組んでいます。私たちは、今後も、皆さんの退院と退院後の生活を全力で支援しますので、いつでも気軽に声をかけてください。



地域医療を支える

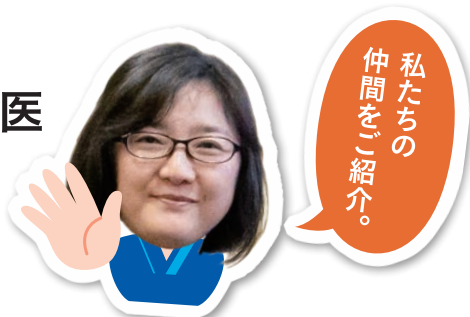
新しい力

チカラ

新人対談企画

初期臨床研修医

新人看護師



学ぶ姿勢を忘れずに、医療職の基礎を育む。



西尾市民病院を選んだ理由と、実際に働き始めてからの感想をお聞かせいただけますか？

寺西 直接的な選択理由は、地元愛知県の病院であることと、奨学金を貸していただいたことですが、純粋に学びの場として、研修の自由度の高さや、人間関係の良さに魅力を感じていましたね。

杉浦 入職後に印象は変わりましたか？

寺西 いや。期待通りだったよ。2年目からの科目選択なんかも自由度が高いし、回る科も余裕を持って選択できるから、自分に合った研修が組み立てやすいと思う。あと、研修医の数が多くないので、同期や先輩研修医ともすごく打ち解けやすかった。杉浦さんは？

杉浦 高校の友人の影響もあり、看護師をめざそうと思いました。地元の西尾市立看護専門学校に入学し、そのまま西尾市民病院に入ったという流れです。ただ、入職前と入職後で大きく印象が変わった点がありましたよ。

寺西 何だろう。プラスの意味だといいなあ。

杉浦 プラスです(笑)。もともと私は、看護師の仕事に対して

「職場での人間関係が難しそう」というイメージを持っていました。でも、この病院では先輩とか周りの人がとても優しく、人間関係が良好なんです。この点は、良い意味で予想と違いましたね。



医師として看護師としての、今後の目標やビジョンを教えてください。

寺西 令和3年度からは、専門領域として精神科を学んでいきたいと思っています。

杉浦 なぜ精神科なんですか？

寺西 脳の機能に興味があって脳機能障害に困っている人を救いたいという気持ちがあるから。将来的には目の見えない人や耳の聞こえない人の脳に、直接画像データや音声データを伝達するような研究にも携わりたいですね。

杉浦 私は、とりあえず5年間を目標に、看護師としての基礎を叩き込むつもりです。その後に、自分が看護師として進む道を考えようと思っています。

寺西 基礎は大切だね。僕も、精神科だけでなく医師としての確かな基礎を確立できるよう、学び続けていきます。



できるかできないかより、やるかやらないかの選択が大切と語る寺西研修医。



先輩のように、患者さんに誠実で優しく接することをめざしています。

初期臨床研修医(2年目)

寺西浩輝(てらにし ひろき)

愛知県名古屋市出身。医学分野に強い興味があり、公務員から転身しました。

新人看護師(3年目)

杉浦亜加子(すぎうら あかね)

愛知県西尾市出身。現在、脳外科・呼吸器・循環器の病棟で勤務しています。

こんな言葉知っていますか？

地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 地域連携パス

今回は
〈地域連携パス〉
について学びましょう



**一人ひとりに最適な治療計画を策定。
機能の異なる複数の医療機関が連携し、
一貫した治療を行います。**

地域連携パスの「パス」とは、クリニカルパス、つまり、プロジェクトを進めるための作業経路のことです。医療の世界では、時間軸に沿ってまとめた「診療計画書」を指します。病院では主に入院患者さんに対してクリニカルパスを作成し、患者さんやご家族、治療に関わる多職種の情報共有や、治療の標準化・効率化に繋がっています。

その一方で、疾患によっては、1つの医療機関だけでなく、急性期病院、回復期病院、診療所といった機能の異なる医療機関が役割を分担し、連携して治療を行うことがあります。そうした場合、各医療機関が独自の方針で治療を行ったのでは、一貫した流れが確立せず、患者さんに不利益を与えかねません。そこで登場するのが「地域連携パス」です。地域連携パスは、複数の医療機関にまたがる共通の診療計画書のことで、施設の壁を越えた切れ目のない治療を可能にします。地域連携パスには主に「一方方向型」と「循環型」があり、前者は急性期から回復期、生活期へと一方通行で流れる診療計画を、後者は急性期病院とかかりつけ医を行き来するような診療計画を指します。

一方方向型地域連携パス：脳卒中、大腿骨頸部骨折など



循環型地域連携パス：がん、糖尿病など



西尾市民病院では

大腿骨頸部骨折の地域連携パスを、地域の5病院と運用しています。

当院では、主に大腿骨頸部骨折に対する一方方向型の地域連携パスを活用しています。この連携パスは、急性期病院として手術や術後治療などを担う当院と、回復期を担う地域の5病院のほか、介護老人保健施設との間でも運用しているものです。実際には、まず対象患者さんに各病院の機能や特色などをお伝えし、転院先の病院を決定します。その後、連携する病院との間で、患者さんの基本情報や体の状態などを記した連携パス用紙と家族背景等を記した別紙を使って詳しく情報を共有し、診療計画に沿って治療を行うという流れです。

転院という手間はありますが、回復期病院では当院よりも長い時間、リハビリを行うことが可能です。今後も、用紙の記載項目や他院との情報共有の方法などを見直すことで、地域連携パスをより良いものにし、各医療機関の強みを活かしたスムーズな治療に繋がっていききたいと思います。

医療ソーシャルワーカー
尾崎拓郎



看護専門外来 専門的な知識・技術を持った認定看護師が療養生活をサポート。

〈看護専門外来〉では、専門的な知識・技術を持った認定看護師が、患者さんやご家族の相談をお伺いし、医師と連携しながら支援を行っています。ご相談は無料ですので、ぜひご利用ください。

認知症 相談看護外来

日時 毎週水曜日(午前9時～11時)

担当者 市川 基子(認知症看護認定看護師)

認知症が心配なとき、
どこに受診すればいいですか？

一生懸命介護しているのに
拒否されます。



摂食(食べる)嚥下(飲み込み) 相談看護外来

日時 第3木曜日(午前9時～11時)

担当者 畑中英子(摂食・嚥下障害看護認定看護師)

退院後に、むせることがあったら
どうすればいいですか？

食事は、どのようなものを
用意すればいいですか？



呼吸器 相談看護外来

日時 第3火曜日(午前9時～11時)

担当者 青山 理(慢性呼吸器疾患看護認定看護師)

在宅酸素療法では、どのようなことに
気をつけるといいですか？

呼吸が苦しくなったときは、
どうすればいいですか？



がん療養 相談看護外来

日時 第3金曜日(午前9時～11時)

担当者 高須由江・山中明子(がん化学療法看護認定看護師)
田境公治(がん性疼痛看護認定看護師)

抗がん剤治療で、
食欲がないことがあります。

一日中、ずっと体が痛いときは
どうすればいいですか？



〈看護専門外来〉
ご予約はこちらから

予約受付時間 平日 午前9時～午後5時(原則予約制)

予約電話番号 0563-56-3171(代)各認定看護師

- お一人30分程度の予約制です。
- 当院で診療を受けられている患者さんと、そのご家族が対象です。

看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先 西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報誌 特設サイト



こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「西尾市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171(代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



発行責任者／院長 棚宣田 政隆
発行／西尾市民病院 広報委員会
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行日／2020年12月18日